

《令和8年度 研究会活動紹介》

研究会名	代表者氏名
頼瑜撰『真俗雑記問答鈔』訳注研究会	小宮 俊海
研究会名 略称:真俗雑記	所 属:大正大学非常勤講師
活動紹介	
<p>【活動内容】 『真俗雑記問答鈔』は、新義真言教学の祖と称される中性院俊音房頼瑜僧正(1226~1304)が、その時々記したものを集成した著作である。その内容は1320余条にのぼり、書名のごとく真言密教や仏教諸宗に関わる事項はもとより、頼瑜自身の夢記や和歌、さらには公家に対する修法や諸家との書簡、和歌論や世典に関する記事など、その内容は実に多彩である。そこで本研究会は各所の諸写本を聚集し校訂し、なかでも巻数の揃った最も古い写本である智積院新文庫蔵本を底本として【本文】を作成し、条目ごとに【校勘】【訓読】【注釈】【解説】を施している。</p>	
<p>【活動実績】※出版/論文/受賞・研究助成の経歴など 本研究会はこれまで既に新文庫蔵本全25冊のうち、整理番号・新文庫31—4—(25—2)に相当する1冊の1丁表~21丁裏までに対する訳注研究を『大正大学総合佛教研究所年報』第36号~第46号までに「巻第一」~「巻第四ノ五」を中間報告しており、現在これら既刊報告を一括した形で刊行計画を進めている。</p>	
<p>【令和8年度活動計画】 主に豊山・智山双方の真言学研究室博士課程単位取得満期退学者のうち研究領域を日本や漢字文献を専門としている研究者を中心に頼瑜撰『真俗雑記問答鈔』に関する研究会を開催してきたが、大部である『真俗雑記問答鈔』の訳注研究に敢えて限定せず、今後は弘法大師や興教大師といった祖師の著作や日本中世や真言教学に関する文献を広く扱う研究会として発展させていく。</p>	